

「授業改善のための学生アンケート」2025年度後期 顕彰授業について

2026年4月30日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は2010年度より実施し、2017年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお2022年度より2年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025年度は全科目区分を2分割して実施しています。2025年度は、文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、大学院（国・フ・英・言）専門科目が対象です。

2025年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2025年度後期

少人数部門（履修者6～19名）

国語国文学科専門科目 木曜2限 後期

「テーマ別研究Ⅱ／テーマ別研究Ⅳ」武田 加奈子 先生（文学部国語国文学科教授）

多人数部門（履修者20名以上）

外国語科目 金曜2限 後期

「総合英語Ⅱ」遊佐 重樹 先生（全学基盤教育部門グローバル言語・文化教育センター教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の6項目（項目毎の平均点の合計／30点満点）とする。
Q7 教員の説明はわかりやすかった。
Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数6～19名）と「多人数」（履修者数20名以上）の2部門とする。
- ⑥ 白百合女子大学 FD・SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第1位を確認、顕彰対象授業を決定する。
その際アンケート回答率によって順位を調整する場合がある。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会